

# 運輸安全委員会ダイジェスト

JTSB (Japan Transport Safety Board) DIGESTS

第14号 (2014年6月発行)

## 船舶事故分析集

ふくそう

## 輻輳海域における衝突事故の防止に向けて

1. はじめに	1
2. 発生状況	2
3. 事故調査事例 (4 事例)	10
4. まとめ	20

### 1. はじめに

日本は四方を海に囲まれ、海運は陸運等と並ぶ主要な輸送手段となっています。関東地方から九州北部の「太平洋ベルト地帯」と呼ばれる地域には大きな工業地帯があり、その周辺の海域では物流が活発で、一方では、良好な漁場も多いことから、同一海面を利用する船舶の輻輳する海域となっています。

運輸安全委員会では「船舶事故ハザードマップ」(以下「HM」という。)の運用を開始(平成25年5月)し、1年が経過しました。利用者自らがパソコンからインターネットを介し、関心のある海域でどのような事故があったか、この海域にはどのようなリスクが存在するか、交通量はどの程度なのかなどを地図上に表示させて知ることができます(「交通量」の説明は3ページを参照)。

HMで太平洋ベルト地帯を見てみると、東京湾、伊勢湾、大阪湾、備讃瀬戸、来島海峡、関門海峡などといった海域においては、交通量が多いことを示す青色であるとともに、事故を示すマークが多く表れ、船舶の往来が活発なことから事故が多発していることがわかります。

最近の重大な船舶事故では、平成25年9月に伊豆大島西方沖で貨物船同士が衝突、6人が死亡し、一方の船舶が転覆する事故や、平成26年3月には東京湾口で貨物船同士が衝突、1人が死亡、8人が行方不明、3人が負傷し、一方の船舶が沈没する事故が発生するなどしており、尊い人命が失われ、船舶及び積荷が損なわれています(現在、両事故については当委員会で調査中)。

そこで、HMを利用し、交通量の多い海域の中から、重大な船舶事故が発生した海域や海上交通安全法による航路等の出入口付近(航路を除く)で特徴的な事故が発生した海域(※1)において、多発している船舶間の衝突事故に着目し、統計資料とともに、事故調査事例の紹介を行うこととしました。

本号が安全講習会等において、関係者の皆様の教材として活用されることなどにより、同種事故の未然防止に資することとなれば幸いです。

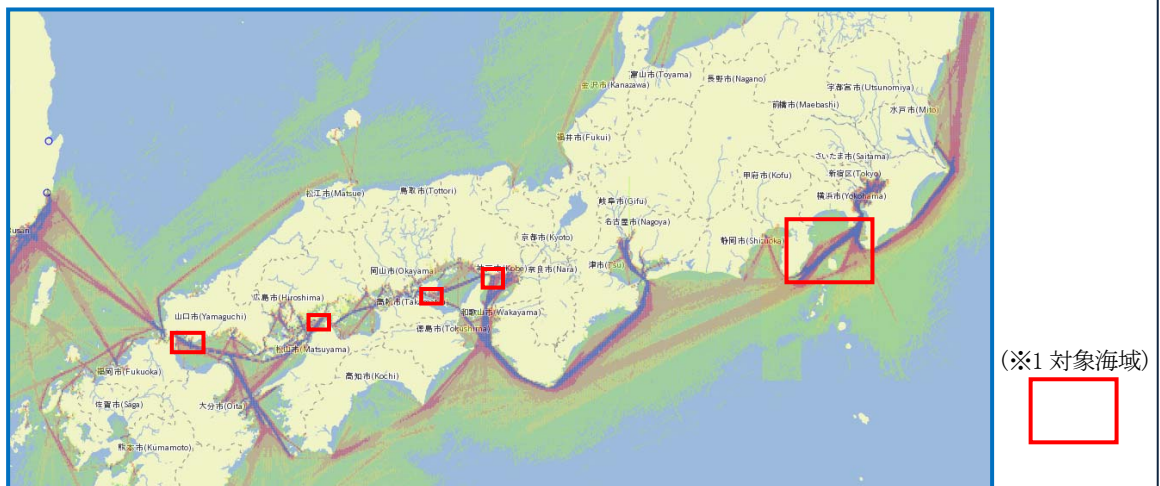


図1 船舶事故ハザードマップ (<http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>) による交通量の状況